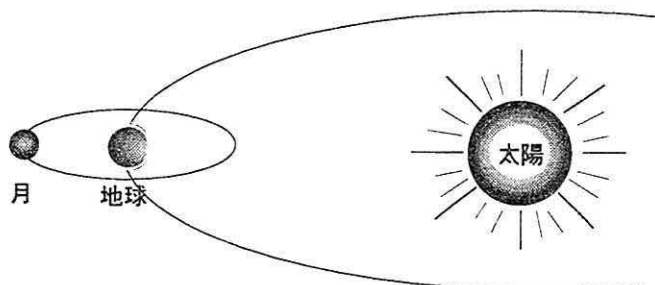


中秋の名月

中秋の名月とは

9月はお月見の季節です。特に江戸時代まで使用されていた旧暦の8月15日にあたる日の月は中秋の名月と呼ばれています。今年は9月16日にあたります。旧暦では新月の日がその月の1日になり、新月から新月までは29.5日ですから、15日はほぼ満月にあたります。ただ、厳密な意味での満月とは、太陽、地球、月が一直線に並んだときをさしますので、中秋の名月と満月の日とは一致しない時もあります。



満月の時の太陽、地球、月の位置

中秋の名月はどこに見えるか

中秋の名月はほぼ満月ですから、中秋の名月は太陽と反対の方向に見えます。夕方は東の空、ま夜中は南の空、明け方は西の空にみえます。



満月の模様はどのように見えるか

月の表面には暗い模様が見られます。これは海と呼ばれる部分で、かつて溶岩が流れていた部分にあたり、比較的平らな地形です。海といっても水があるわけではありません。反対に白く光って見える部分は、クレーターや山がある部分です。この黒い模様は昔から、色々な模様に見てられました。日本で有名なうさぎの模様は世界各地でも以下のような模様に見ています。皆さんもどのように見えるか、実際の月で試して見てください。



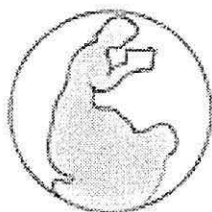
うさぎのもちつき



かに



女の人の顔



本を読むおばあさん



ロバ



ほえるライオン

今年は皆既月食も見られます

今年の中秋の名月は、4年ぶりに皆既月食を見ることができます。皆既月食とは太陽、地球、月が一直線に並び、月が地球の影の中に入る現象です。夜中を過ぎ、日付が9月17日の、午前2時8分に月の一部が欠け始め、午前3時15分に皆既月食となります。皆既は午前4時18分まで続きます。この間、月が完全に見えなくなるのではなく、赤銅色になり、一部が光ったように見えます。これは、地球に空気があるので、太陽の光が屈折し、影の部分に赤い光が回りこむためです。皆既月食が終わると、月は輝きを取り戻し、午前5時25分に元の満月に戻ります。

次の皆既月食が見られるのは2000年になります。

(渡辺 誠)

観測会のお知らせ(雨天・曇天中止) 場所: 富山市天文台(富山市三熊49-4 Tel 0764-34-9098)

中秋の名月を見る会……9月16日(火)午後7時半～9時半(有料)

皆既月食を見る会……9月17日(水)午前2時～5時(無料)



富山市科学文化センター

〒939 富山市西中野町1-8-31 TEL(0764-91-2123)

平成9年9月1日